

目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	入居者の高齢化に伴いADLの低下が見られてきている。介護する上で介護技術が問われるようになってきている。 基本介護の徹底を図る為に介護技術を身に付ける。	基本介護を身に付け安全な介助ができるようになり資質の向上を図る。 全員がマニュアルに添った介助ができる。	移乗・移動介助、食事介助、入浴介助の基本的な介護技術の勉強会を毎月行う。入居者のADLの変化に応じて、正しい介助の仕方を学ぶ。	6ヶ月
2	36	自分でトイレに行かれる方のトイレのドアの開放について、開放したままの状態が伺える。	プライバシーの保護について、再度勉強会を開き、常に意識を持って介護に当たる。	3月のカンファレンス及び勉強会において、プライバシーについて認識を深める為に業務の振り返りを行い、特に排泄の際の対応を統一する。	1ヶ月
3	4	毎回参加メンバーは同じであり、家族は交代で参加していただいているが、話題がお互いに把握できるメリットがある反面、会議内容がマンネリ化している。地域に根ざした施設となるように、色々な方からの意見が必要と思える。	現在の参加メンバーに新しく地域の方の参加をしていただく。母体施設の管理栄養士の参加による食の話などをして頂く。	地域の買物先の店長、管理栄養士に参加を1回から2回ほどお願いし、買物時の食材の選び方や管理栄養士には栄養、調理の話題を持ち、入居者の食に対する知識を養い今後の職員の資質の向上を図る。	6ヶ月
4	49	現在の入居者の屋外の楽しみに、生活歴を取り入れた活動がまだあるように考えられる。	園芸を行い、土いじりや植物に触れることで、本人の生きがい作り及び上肢下肢の機能の維持改善を図る。	ウッドデッキ前に現在の花壇の他、園芸用の菜園を造り、職員と入居者が一緒に野菜を育てていく。精神的な安定を図る。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。